

## 第3学年4組 社会科学学習指導案

平成28年10月18日(火) 第4時 3年4組 教室 指導者 佐々木 幸美

### 1 単元 地方自治と私たち (本時 5/9)

#### (1) 単元目標

- ① 国民の一人として東日本大震災からの復興について関心をもち、持続可能な社会づくりの視点を踏まえて、意欲的に学ぼうとすることができる。(社会的事象への関心・意欲・態度)
- ② 自分と地域の政治との関わりについて、多面的に考察することができる。(社会的な思考・判断・表現)
- ③ 地方公共団体の仕事や住民自治について図表にまとめたり、自分なりの分析をしたりすることができる。(資料活用の技能)
- ④ 東日本大震災で被害を受けた地方公共団体の、復興や防災に向けての取り組みについて理解する。(社会的事象についての知識・理解)
- ⑤ 防災や減災を踏まえたまちづくりの実現を目指して、解決すべき課題を探究し、自分たちにできることは何かを考える。(多面的・相互的に考える力)

#### (2) 構 想

東日本大震災についての記憶は、小学3年生だった生徒にとっては、テレビ映像での記憶としてもあいまいであると考えられる。しかし、復興と防災への取り組みは現在も継続中である。社会の課題を自分事として捉えることは、地方自治の第一歩でもある。公民的資質を養うために、生徒の意識を社会の課題の解決に向かわせることが重要だと考える。

竜南中学校では防災教育に力を入れており、1年生の時から防災について学び考えてきた。3年生となり、夏休みには今年で5回目となる東北地方訪問(宮城県)に36名の有志の生徒と5名の教員が参加した。その中で、亘理町の荒浜中学校と交流を行った。また、亘理町の漁港でのボランティア体験を行い、岡崎市の職員で志願して亘理町へ行き1年間復興まちづくり課で仕事をしている方のお話を聞いた。現在は、亘理町では復興が進み、津波から町を守る様々な施設を考えている。防災まちづくり課の仕事の一つに災害危険区域に指定された場所の住民を防災集団移転促進事業がある。災害危険区域とは、地方公共団体が条例により津波による危険が著しいと指定した区域であり、同区域内における建築が制限される場所である。この復興への取り組みの話を選択材として、地方自治について学習を行いたいと考えた。

本単元では、まずこの災害危険区域に住んでいた家族が津波により家が流されてしまい、再び家を建てるなら移転をして建てるか、移転せずに同じ場所に建てるかという課題を与える。「移転すべき派」「移転しなくてもよい派」に立場を分け調べを進めていく。調べを進めていく中で、住民側の思いと行政側の取り組みについて事実を知り、理解を深めていく。話し合いで自分の立場と反対の意見を知ること、対立から合意へとつなげていきたい。その際に、どんな条件ならば受け入れることができるのかを考える。そして、地方自治の理念や地方財政のしくみなどに触れていく。亘理町荒浜地区の復興と防災対策が地方自治の理念に基づく取り組みであることを理解したい。そして、復興まちづくり課へ派遣してまちづくりにかかわっていた岡崎市の職員の方をお招きして、住民と行政が協力し合えたところは復興が早かったことなどを話していただき、自分たちも行政だけに任せておくのではなく、自分たちのまちづくりに協力していきたいという思いをもたせたい。

本学級の子供たちは、社会科の授業での話し合いにとっても積極的である。「集団的自衛権は、違憲か合憲か」の課題では、教科書や資料集から読み取った内容から話し合いを活発に行うことができた。しかし、教科書と資料集からの情報しかなく確実な根拠や事実を把握できずに、話し合いが中途半端に終わった。さらに、自分の意見というよりは、教科書や資料集に書かれているからとということ根拠にしている部分がある。今回の授業では、荒浜地区の移転問題を深く調べていくことで自分事として内容を考えるようになるだろう。本時の授業では、「移転すべき派」「移転しなくてもよい派」に分かれて話し合いを進めていく。まずは、自分の選んだ立場の思いを存分に話す時間を設ける。しかし、相手側の立場の意見にも耳が傾けられるように、切り返す場面を設定する。多面的な見方をしながら、よりよい亘理町にしていくためには、どのように解決していく

べきなのかを考えていく。真剣に考え悩むことは、政治にかかわっていく態度を育てることであり、主権者としての意識をもつことに繋がると考えている。

### (3) 単元計画

学 習 課 題	学 習 内 容	時間
亙理町は、どんな様子なのだろうか (総合)	<ul style="list-style-type: none"> <li>荒浜中学校のことを東北ボランティアに参加した生徒が様子を話す。</li> <li>災害危険区域になった荒浜地区の場所を写真と地図で把握する。</li> <li>亙理町に岡崎市役所の方が、派遣していることを伝える。</li> </ul>	1
津波で家が流された、移転は嫌だ。あなたなら、どうする？	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害危険区域に住んでいた人 モデル家族の構成：祖父母 (70 歳) 農業/父・母 (40 歳) 会社勤め/自分 (中学生) /妹 (小学生) /弟 (幼稚園)</li> <li>津波で家が流されてしまった</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">あなたなら、どうする？</div> <ul style="list-style-type: none"> <li>移転すべき・移転しなくてもよいの議論 すべき：また津波が来たら怖いから。みんなも移転したら一人ぼっち。しなくてもよい：代々長く住み続けた場所から離れるのは先祖に申し訳ない。前に住んでいた家よりも劣る。</li> <li>追究計画の作成 (どんなことを深く調べてみたいか) 自分の考えを裏付ける事実を探す。 どんな方法があるのか (本、話をきく)</li> </ul>	1
資料で調べたり、話をきいたりしてみよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>追究活動 資料から調べる 亙理町復興まちづくり課の取り組み・対策 震災により移転をした人しなかった人への聞き取り調べ</li> </ul>	2
調べたことをもとに課題について話し合おう	<ul style="list-style-type: none"> <li>根拠をもとに話し合う</li> <li>仲間の意見を聞いて自分の意見を再構築する すべき：立ち退くことで他の人のためになる。亙理町の役場の人は、移転計画を立てている しなくてもよい：やはり残りたい。人々の想いは、強い。残せるようにすることは、できないのか</li> </ul>	1 (本時)
どのような条件ならば、合意していけるのだろうか考えよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのような条件であれば、相手側の意見に賛成できるのか。</li> <li>合意案を考える</li> </ul>	1
市役所の職員の方からお話を聞こう	<ul style="list-style-type: none"> <li>亙理町の復興まちづくり課へ派遣された職員の方のお話をきく。</li> <li>災害危険区域は、よく考えて決められたのだ。</li> <li>行政と住民が協力していた地域は、復興が早かった。</li> <li>自分たちも岡崎を大切にしていこう。</li> </ul>	1
住民のための地方自治体	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方公共団体について考える</li> <li>憲法から地方自治について考える</li> <li>地方公共団体の仕事について考える</li> <li>自分たちが住んでいる地方自治体をよくするための提言を考える</li> <li>地方自治体の財政について考える</li> </ul>	1
地方自治体を民主的にすすめるための権利	<ul style="list-style-type: none"> <li>地方自治のしくみを考える</li> <li>住民の意見と首長・議会の意見が対立した場合を考える</li> <li>直接請求権の行使について考える</li> <li>解職請求 (リコール) について考える</li> <li>住民要求の実現について考える</li> </ul>	1

## 2 本時の学習指導

### (1) 目 標

調べてきたことをもとに亙理町復興支援課の取り組みを理解し、移転問題について自分の考えを話し合える。(思考・判断・表現)

### (2) 学び合いを高めるための手立て

合意に近付けるために、相手側の意見で取り入れるべきことは何かを考える。

### (3) 準 備

- 生徒……今までに調べた学習ワークシート、筆記用具
- 教師……座席表、本時の学習ワークシート、ネームプレート

(4) 展開

段階	生徒の活動	教師の支援
導入 (4)	1 災害危険区域となった、荒浜地区の写真を見て、テーマを思い出す。 黒板に貼られているネームプレートを見て、級友の考えを把握する。	・荒浜地区の様子や荒浜中との交流写真を3枚映し出す。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; margin-top: 10px;">                 移転すべき <span style="margin-left: 100px;">移転しなくてもよい</span>  <input type="checkbox"/> <input type="checkbox"/> <span style="margin-left: 100px;"><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/><input type="checkbox"/></span> </div>
課題 (1)	2 本時の学習課題を把握する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; text-align: center;">互いの意見を聞き合い、移転についての考えを深めよう</div>	・本時の学習課題を板書する。
追究1 (25)	3 課題に対する自分の考えについて、調べてきた根拠を基にして、自分の立場を明確にして、話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <b>【移転しなくてもよい】</b>                      ・長年の歴史や思い出がある場所だから簡単に移転はできない。・財産権がある。                      ・移転するとまた新しく人間関係をつくっていかなくてはならないことは、やはり負担だと言っていた。                      ・居住・移転の自由があるのだから住むところを自分たちで選ぶことができるはずだ。  <b>【移転すべきだ】</b>                      ・また、津波が来たらおじいちゃんたちは逃げられない。町もこの荒浜地区は防災危険区域と定めている。                      ・移転すれば、補償してくれる。                      ・反対している人に対しては、説明会も行われていた。                      ・ここには、防災公園などがつくられる予定となっている。公共の福祉からみても、移転すべきである。                 </div>	・座席は、「移転しなくてもよい派」「移転すべきだ派」の立場に分かれて向かい合うように指示しておく。 ・ハンドサイン（意見・付け足し・反対）や座席表に書かれた生徒の意見を見ながら、意図的指名を行っていく。 ・発言の内容を把握しやすくするために、付け足しの生徒を優先し、その後に反対の意見を出させるようにしたい。 ・「移転しなくてもよい派」からは、住民の思い「移転すべき派」からは行政の取り組みについての意見が出るように促す。 ・「移転すべき派」から災害危険区域と定められたからという意見が出てきたら納得できるかどうかを「移転しなくてもよい派」に問いかける。 ・人権についての視点が出たら、意見を求める。 ・板書を見て住民側の意見と行政側の意見に分けて色別にチョークで囲む。
追究2 (15)	4 板書を見て、気付いたことや分かったことを発表する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ・移転すべき派は、行政側の意見が多い。                      ・移転しなくてもよい派には、住民の意見や意見が多い。                 </div>	・反対側の意見を見て、多少でも納得できる意見を挙げるように指示をする。 ・自分と反対側の意見で取り入れるべきことや大切にしなければならないこと何か考え、どうすれば解決できるのかを考える。
整理(5)	5 よりよい亘理町荒浜地区のまちづくりのためには、どのようにこの意見をまとめていくことがよいのか考える。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">                     ・住民の地元を大切にしたい思いは分かる。思いを残すために、石碑を建てよう。                      ・行政の取り組みは理解できたが、二度とこんな思いをしないように、しっかりとした対策をする。                 </div> ・ノートに本時で学んだことや感じたことについて書く。	・解決策を考えるために、周りとは相談するよう指示する。  ・亘理町荒浜地区のよりよい町づくりのための策を話し合っていきたいという思いから次時へとつなげる。

(5) 評価

- ・ 移転したくないという住民の思いと亘理町復興支援課の取り組みを理解した上で、より良いまちづくりについて自分の考えをもつことができたか。 (活動3の発言5の様子及びノートから)
- ・ 主権者意識→住民側と行政側の両方の思いを知り、合意していくためにはどうしたらよいのか考える。市役所の職員の話聞き、住民と行政が協力してまちづくりを行っていくことが大切ということを知り、自分たちの町づくりへかかわっていかうとする姿。